

【情報工学科】

ディプロマポリシー

情報工学科では、「ソフトウェアやハードウェアはもちろん、それらに係わる情報セキュリティに対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目標としています。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同（教育、活動）をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っております。

上記に掲げる人材となるためには、①本学科に在籍し、②以下に示す能力およびそれに関連する諸事項を身につけ、③卒業要件を満たすこと、が求められ、①～③を満たした学生に対して卒業を認定し、準学士と称することを認めます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする能力
 - ・現代社会を生きるための基礎知識
 - ・社会の様々な事柄に関心を持つことができる知的好奇心
 - ・技術と社会・自然との関連に、すすんで関心を持つ積極性
2. グローバルに活躍する能力
 - ・日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝える表現力
 - ・英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝える語学力
 - ・自国の文化の理解に基づいた、他文化への理解と許容力
3. 創造力を活かし自立的にものづくりに取り組む能力
 - ・専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識
 - ・コンピュータやその周辺機器を活用した文書・資料作成の技術
 - ・ネットワークを通しての有用な情報収集力
 - ・専門分野の学習や工学実験等を通して得られる専門分野の基礎的な知識
 - ・ものづくりと自主的継続的な学習を通して養われる創造性
 - ・本校で学んだ専門分野の知識に基づいた応用力
4. 相手の立場に立ってものを考える能力
 - ・技術者の社会的な責任と立場に関する理解
 - ・様々な文化・歴史などを通して身につける多様な価値観
 - ・異文化や自分と異なる考えを学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる想像力

カリキュラムポリシー

情報工学科では、情報処理や論理回路、電子計算機等の科目を中心としたプログラミングやハードウェアに関する基礎的な講義や演習、実習の修得に加えて、オペレーティングシステムやヒューマンインタフェース、情報通信、情報ネットワーク等の基盤技術や、データサイエンスやサイバーセキュリティ、人工知能等の先端技術を修得することで、高い実践力や創造力を有する技術者あるいは研究者を育成することを目的とします。

卒業研究については4年次後学期から取り組みを開始し、研究の過程を余すことなく実践できるようにしています。

アドミッションポリシー

I. 求める学生像

本校の学習・教育到達目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受

け入れます。特に、次のような人を求めています。

1. 論理的な思考ができる人
2. ものづくりが好きな人
3. コミュニケーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

II. 入学者選抜の基本方針

・推薦選抜

学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接の結果をもとに総合的に判定します。

・学力選抜

学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定します。

・帰国子女特別選抜

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象です。

・編入学

工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査・口頭試問・面接の結果及び調査書、推薦書の内容を総合して行います。